

## 講演会「仏像鑑賞入門 島本町の仏像」

平成 26 年 5 月 31 日 (土)

吉原 忠雄 氏

こんにちは、吉原です。島本町の仏像の話の前に、仏像の鑑賞の仕方を、つまり具体的に、その仏像の名前と造られた時代とを知る方法をお話しします。

仏像制作の目的は、本尊であったり供養したり祈願したりあるいは法会、法要の為に造るわけです。信仰の対象の一方で仏像は美術品なんです。美の基準というのは、時代によって変わります。例えば、現代はほっそり美人がもてはやされますが、観心寺の如意輪観音さんは、豊満な美人です。という風にその時々によって、美に対する意識が違うわけです。その時々によさわしい美が仏像に反映しているという事です。

その次に、仏像の制作について。仏像は時代によって材料と技法が違います。材料は、飛鳥時代の銅・樟から、奈良時代全盛期は漆、後半からカヤが使われ、平安前期少し過ぎた頃からは檜を使い出しました。そういう傾向なんかも捉えながら見ていくわけです。それから技法。奈良時代ですと脱活・木心乾漆です。それから木造が一木造そして平安後期になってまいりますと、寄木造と言うのは、皆さんご理解頂いているんじゃないかと思います。

そして仏像制作には思想というのが反映します。例えば、沢山の阿弥陀さんがおられます。平安後期以降、浄土教という思想が盛んに取り入れて造られていくわけです。それから、その時代の美意識が反映されるわけです。仏像にはその時代の子々な要素が入っています。仏像は人間が作った物です。そこから、我々は色々な情報を取り出して、研究していく。出来るだけ客観的な知識として取出していくという作業をやります。美意識というのは、人によって違う場合があります。だから極めて不安定です。けれど、時代によってそれぞれの美意識がありますから、それを出来るだけ捉えていこうというのが美術史なんですね。

次に仏像鑑賞のポイントである「知識と感性」についてです。知識と言いますのは、例えば仏像の名前。出来るだけ正確な知識を獲得すると言う事がまず先決です。その仏像の特徴というのを覚えていくことによって何と言う仏であるかという事を、見た瞬間に理解し、把握出来るようになる。これは知識です。それに対して、仏像というのは美術品ですから、これは感性の問題です。美に対する感性と言うのが実は仏像鑑賞に大事になってきます。

で、もう一つ、「比較」。例えばこの仏像とこの仏像とどういふ所が似ているのか、そういう訓練をします。印象でこの仏像とこの仏像とよく似ているから同じ時代じゃないかという事を直感で、分かってもらふ訓練をしてもらうという事です。

鑑賞のポイントの一つの仏像の名前を知識として覚えるには、「如来」、「菩薩」、「明王」、「天」といふ仏像の4種類の特徴を覚えて下さい。

如来というものは真理を悟った人で、その特徴は、頭の上が盛り上がり、そして、髪の毛がツブ



ツブになっております。そして薬師如来とか釈迦如来とか阿弥陀如来のちがいは、手の形で判別します。また薬師如来は薬壺を持ちます。

それから、菩薩は、釈迦の王子の時の姿が基本だと考えられています。王子ですから冠をかぶったり、髪を伸ばして綺麗に着飾っているわけです。

菩薩で有名なのが、観音菩薩です。基本的に、観音菩薩は額に阿弥陀の小さな仏を乗せています。我々と同じように普通の人間と同じ姿をしてるのが、聖観音、そして十一面観音、更に御利益がある観音として、千手観音があります。それから観心寺のような如意輪観音です。手が6本あり、「如意宝珠」という玉を持って「法輪」という教えを広める為の輪を持っています。

それから、地蔵菩薩があります。お坊さんと同じように、頭を丸めて袈裟をつけて、右手に錫杖を持っています。左手には如意輪観音と同じ珠を持っています。

それから陀羅尼を守って悪を打ち砕く「明王」があります。よくご存知のものとして不動明王があります。

最後は「天」です。仏教の守護神です。一番に皆さんがご存知なのは毘沙門天です。左手に宝塔を持って、鎧を着ています。これは中国で成立したからです。仏像がその地域のもので融合している証拠でもあります。簡単な特徴を覚えるだけで、基本的な10の仏像の見分け方が理解していただけたと思います。これだけを完全に覚えると、特徴を次々に覚えられて仏像が増えて行きます。

鑑賞のポイントの2つ目の仏像の時代判定をするには、まず、時代区分と時代を知らなければなりません。飛鳥時代前期、同後期、天平（奈良）時代、平安時代、同後期、鎌倉時代…。それぞれの時代の美意識に基づいて、表現の形式つまり様式が違います。

わかりやすいように、2つのスクリーンの映像で比較しながら、具体的に説明します。飛鳥時代の法隆寺釈迦三尊像は、不思議な神秘的な感じですが、これは左右対称で平面的な表現などからです。それが後期の野中寺弥勒菩薩半跏像では量感と立体感が出てきて、天平時代の葛井寺千手観音坐像では理想的な人体表現となりますが、平安前期ではそれを崩して神護寺薬師の量感豊かな威圧的で存在感のある仏像になります。やがて遣唐使の廃止などで日本人の感性に応じた優美で繊細な平等院鳳凰堂阿弥陀如来坐像が平安後期の代表として大成されます。平安末の混乱により現実感が浸透するに従い、鎌倉時代の運慶の写実的な量感のある願成就院阿弥陀如来坐像が制作されます。

このように、各時代の代表あるいは代表的な作品を比較することによって、少なくとも時代時代で仏像の感じが違うことがわかっていただけたと思います。各時代の仏像にはその時代の表現、様式には共通する感じ、受ける印象がありますので、その印象を大切にしてください。多分、今度、仏像の展覧会なんかで同じ印象の仏像に出会うことがあると思います。一方で、仏像の名前を覚え、一方でその時代独自の様式に対する感性を磨く。仏像の鑑賞はこれに尽きると思います。

それでは地元島本町の仏像の名前と時代をあてるクイズを出します。（中略）はい、みなさんよく出来ました。島本町の仏像では宝城庵の薬師如来立像が平安後期、勝幡寺の薬師如来立像が鎌倉初期、地蔵院地蔵菩薩立像が鎌倉時代ということなどが、今日習った知識と感覚でわかっていただけたでしょう。

という事で最後ですが、今日は本当に暑い中、熱心に聴いて頂いて私も話が良かったです。ありがとうございました。